豊島区立中央図書館報

豊島区

TOSHIMA International City of Arts & Culture 国際アート・カルチャー都市としま

図書館通信（としょかんつうしん）

第38号
季刊（秋）
2015

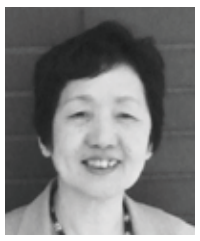
トピックス

●巻頭言　ミステリ研究家　野地嘉文・・・

生涯の一冊（37）

書名：『デミアン』
著者：ヘルマン・ヘッセ
訳者：高橋健二
昭和26年11月発行
新潮文庫

夢二研究会代表
現代女性文化研究所理事
坂原（さかはら）　冨美代（ふみよ）



1946年文京区に生まれる。
豊島区在住。長年都立高校で国語の教員を勤める。

『デミアン』との出会い

高校生時代の『デミアン』との出会いは衝撃的でした。明るく元気いっぱいに振舞っていても、内面では漠然とした不安に押し潰されそうだった私は、この作品に出会うことで、心の闇を照らされ、深く癒されました。

物語の主人公シンクレールは、今まで護られてきた温かい家庭から、外の荒々しい世界に足を踏み入れ、傷つきます。作者のヘッセにも、自分を異なった価値観で圧倒し、支配しようとする外の世界は耐え難いものだったのでしょう、彼の分身ともいえる『車輪の下』の主人公ハンスは、その抑圧に耐え切れず、孤独のうちに死んでいきます。が、シンクレールはデミアンと出会うことで救われ、生きる道を探っていくのです。デミアンは、それまでシンクレールを縛り付けて来た古い価値観を軽々と打ちこわし、殻を破って新たな世界に飛び立つ勇気を与えてくれます。

旧約聖書に登場するカインは、弟殺しの罪を犯し、額に印をつけられますが、デミアンの解釈では、実はカインは特別な力を持っていることで人々に怖れられ、追いやられた人間だというのです。そして、西洋の退廃した文明の危機を救うのは、異端として疎んぜられているカインのような人間の英知であり、自分達も額に印を持つカインの一族だと、シンクレールに自覚させるのです。

ヘッセの生きた第一次世界大戦前の西洋では、これまでの価値観が大きく揺らぎ、ヘッセ自身も悩み苦しんで、その精神の遍歴を、青年シンクレールの自己探求の物語として『デミアン』に籠（こ）めました。

自分の内側から湧き出るものに忠実に生きようとしただけなのに、それが実に困難だったとヘッセは述懐します。『デミアン』は、シンクレールのような悩める青年の支えとなる力を、今も変わらず秘めているでしょう。

私は長年高校の教師として、多くの若者と触れ合う間に、何人かのシンクレールに出会いました。真摯（しんし）に悩み、迷う彼等の孤独に向き合う時には、『デミアン』と出会った当時の自分が甦（よみがえ）り、この作品が彼等をも癒し、力づけてくれることを願ったものです。

図書館と私 ㉕

中央図書館
図書館奉仕員（司書）
永見　弘美

資料がつないだ70年前の思い出

図書館なのに図書館らしくない特別な時間だったなと、今も思い出すことがあります。

たくさんの方から直接お話を伺って約70年前の出来事がとても身近に思えた、私にとって忘れられない体験です。

2年前の冬、当時勤務していた図書館の展示テーマは「学童疎開」。私たち疎開元（新宿区、旧柏木地区）と疎開先（草津温泉）の図書館員が偶然知り合い、当時の記録写真を集めた同じ資料を所蔵しているとわかったことから生まれた企画でした。そこで、当時と現在の草津を写真で比較したり、町の広報の関連記事を送ってもらったりと多くの協力を得て展示コーナーが出来上がりました。その事が思いがけず新聞記事になったために、小さな図書館のささやかな展示に対し、都内各所からの問合せや来訪が次々とあるという大慌ての事件になってしまったのです。せっかく来ていただくからには失望されないようにと、追加の資料を集めに豊島区立中央図書館にも足を運んだこともありました。展示資料は、疎開生活の写真、地域の記念誌、草津温泉の地図など（当時の地図は見つかりませんでした）。遠くから、また家族や友人と一緒に来館された方々は、皆80歳前後。写真の中に自分の姿を見つけ、たとえ自分はいなくても宿や景色を熱心に見入った後は、必ず私たちに思い出話をしてくださいます。中には、大切に保管されていた写真や手紙、日記などを持参して。「つらい事はたくさんあったけれど、楽しい事もあったよ」と子どもに戻ったように話される様子からは、私たち図書館員にだけでなく、他の利用者の皆さんにもあたたかいものが伝わっていたようでした。展示の前で話すこと1時間はざら、時には話をするために順番待ちがあった状況は図書館らしからぬ雰囲気だったと思います。けれど、期間中一度も苦情はありませんでしたから。図書館で働いているからこそ、こうして貴重な記憶の一端に触れることができたのだと、改めて感じています。

Café KONOHON この本カフェ

4杯目

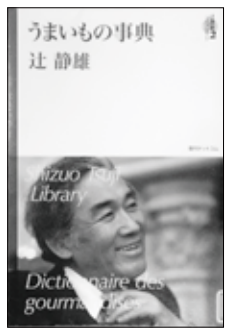
ものは、食べておしまいではない。言葉も同じ。からだに入り、栄養となる。好き嫌いなくバランス良くとは、食と言葉に共通する智恵だ。「この本カフェ」でも、読者のみなさんの糧になるものを選んでいる。人と同じで、いい本は何度か味わうことでその魅力が増すものだ。秋の夜長、食事を楽しむように良い本をゆっくり味わってみてはいかが。

今回のテーマ

食べたい本

書名『うまいもの事典 <辻静雄ライブラリー 2>』

辻　静雄　著　　復刊ドットコム　2013年(復刻版)



著者は辻調理専門学校の創業者であり、日本人として唯一、フランス政府から料理部門でMOF賞(フランス国家最優秀職人勲章)を与えられた料理研究者。本書では、ヨーロッパで最高級の「うまいもの」がまさに専門家の細かな視点で綴られており、食材から調理方法、エピソード(薀蓄(うんちく))まで楽しめる。単なるグルメ本の域を越えた、食の楽しみ方の指南書であり、ページをめくるたび、人間だけが持つ「卓を囲んでの『食卓の快楽』」へと読者を導いてくれる。復刻版エッセイ集(全7巻)の第2巻。

【古清水 厚（こしみず あつし）】

書名『テーブルマナーの絵本』

髙野紀子　作　　あすなろ書房　2011年

僕のごちそうはなあに？「ママがお口に運んでくれるもの」。おや、甘えん坊さん。「がつがつ頬張っている時にこそ、美味さが分かる」、育ちざかりのお兄ちゃん。

でも、ハレの日には少し背筋を伸ばし、「僕、大人だよ」ってところを見せなくちゃ。

お箸で食べる。ナイフ・フォーク・スプーンで食べる。お店で食べる。だいじょうぶ、だいじょうぶ。絵のなかの優しい表情のくまさんたちが、食器の使い方を丁寧に教えてくれます。心を込めた「いただきます」と「ごちそうさま」を言えるのが、「おとな」だよ。

【三瓶 裕雅（さんぺい ゆうが）】

書名『暮らしのさじ加減 ていねいでゆっくりな自分にちょうどいい生活』

金子由紀子　著　　二見書房　2010年

角のない、どこかなつかしさを覚えるタイトルに目が留まり、手にとった一冊。ところどころに単線のイラストがあり、それもいいアクセントに。本当に好きだったのは何か？　本当は何がしたかったのか？　本当は何になりたかったのか？　そう問いかけながら、立ち止まって深呼吸をし、自分サイズの「心地よい」ことを見つけ、それらを積み重ねて生きるよう促す著者。「ライフスタイルのヒント」とサブタイトルをつけたいぐらい、本書には生活の質を見直すヒントがたくさん詰まっています。

【佐藤 勝美（さとう かつみ）】

寄稿者はとしまコミュニティ大学の学習者の内、登録して学んでいる「マナビト生」です。人類学者 佐藤壮広氏のご指導をいただきながら、毎回テーマに合わせて文学、児童書、書評や科学の分野のお薦め本を1冊紹介しています。

絵本で会いましょう

（全4回）第2回

風木 一人（かぜき かずひと）

東京都生まれ。絵本作家・翻訳家。創作に『うしのもーさん』、『ぬいぐるみおとまりかい』、『ふしぎなトラのトランク』、『ながいながいへびのはなし』など、翻訳に『こくばんくまさん　つきへいく』、『おおきな木のおはなし』などがある。
池袋コミュニティ・カレッジで絵本講座開講中。
http://www.geocities.jp/kzk227/

世界各国の絵本が実に数万冊。初めて行ったときはどきどきしました。ぼくはここで半日過ごすことがあります。午前中に入り、2時間ほど読む。カフェテリアで食事して休憩。その後また閉館まで読み続ける。絵本におぼれる楽しい時間です。

国立国会図書館　国際子ども図書館
〒110-0007 東京都台東区上野公園 12-49
開館時間　9：30～17：00
休館日　月曜日、国民の祝日・休日（5月5日こどもの日は開館）、年末年始、第3水曜日（資料整理休館日）

●60点を75点に▲■

たくさん読んでいると、いくつか訳してみたい絵本が見つかりました。おっかなびっくり訳してみると、うん、自分では悪くないような気がします。そこで、あすなろ書房のYさんに見てもらうことにしました。あすなろ書房は翻訳絵本を数多く出している出版社です。

Yさんはていねいに検討してくれました。結果的にぼくが提案した2冊はボツだったのですが、意外なことにYさんの方からも提案がありました。「風木さんの文章に合うんじゃないかと思って」と1冊の絵本を手渡されたのです。『B－RDS』という絵本でした。

編集部で仮に訳してみたというテキストを示し、Yさんはにっこりしました。「これが60点。75点にしてくれたら風木さんに任せるなあ。やってみます？」

やりますとも。

さっそく取り掛かりました。初めての翻訳で自信がなかったので、ひびのさほさんに共訳をお願いしました。ひびのさんは英語堪能で翻訳経験もあったのです。ぼくが訳したものをさまざまな角度からチェックしてもらい、修正して戻す。再度チェックしてもらい、また修正。そんなことを数度くりかえし、訳文をねりあげました。

●絵本にもお国柄▲■

幸い75点はクリアできたようで、正式に依頼を受けました。とはいえ道はまだ半ば、Yさんはベテラン編集者の厳しい目で、いくつかの問題点を指摘してくれたのです。それはいずれも単純な読み違いなどではありませんでした。英語から日本語に訳して、意味もリズムも完全に同じということはありえません。それはもう言語が違うわけですから。それでも可能な限り近づける。すでにギリギリまでやったつもりでしたが、もっと肉薄できる箇所がある、というのがYさんの指摘でした。

がんばりました。まあここからは、がんばってがんばって、やっと1点積み増すような作業です。Sさんの言葉がようやくわかりました。絵本翻訳は日本語力。シンプルな言葉で微細なニュアンスまで表現できる日本語力こそ最重要だったのです。

『とりとわたし』（ケビン・ヘンクス作　ローラ・ドロンゼック絵）は2009年6月に完成しました。

美しい絵と短い言葉で感性に訴える、詩と物語の中間のような絵本です。欧米では1ジャンルとして確立しているけれど日本ではあまり作られないタイプで、そういうものを翻訳する意味は大きいと思います。

絵本にもお国柄は出るもので、日本には日本らしい絵本が、アメリカにはアメリカらしい絵本があります。日本にはないタイプのすぐれた作品を読者に手渡せるのが、翻訳という仕事のいちばん素晴らしいところでしょう。

『とりとわたし』
ケビン・ヘンクス　作
ローラ・ドロンゼック　絵
風木一人／ひびの さほ　訳
あすなろ書房　2009年6月

●絵本翻訳は日本語力？▲■

あるとき、編集者のSさんに聞かれました。

「風木さん、翻訳はしないんですか？」

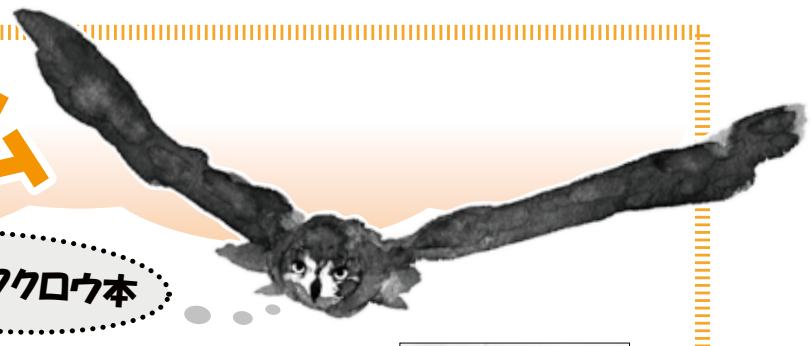
「英語できませんから」と答えると、Sさんはきっぱり言いました。

「それは違います。絵本翻訳は英語力じゃなく日本語力の勝負ですよ」

そうなの？　その場では正直ピンとこなかったのですが、それからなんとなく英語の絵本を読むようになりました。なるほど絵本の英語なら読めないこともありません。子ども向けですからね。どんどん読んでいくと、だんだん面白くなってきました。

もっと英語の絵本を読みたい。海外絵本があるところは、大型書店・図書館等、探せば意外とあるものですが、なんといっても日本でいちばん多くの海外絵本を見られるのは上野にある国際子ども図書館でしょう。

まるごとミュージアム



前号からはじまったこのコーナーは、4つある**「新庁舎の特徴」をテーマに図書資料を紹介する**連載です。今回は「新庁舎まるごとミュージアム」です。その名の通り、庁舎の中全体で美術作品や区の文化財を展示していて、まさに楽しみながらこの巨塔を巡回できるというアピールなのです。なかでも**注目すべき展示はやはり「ふくろうコレクション」**でして、その数なんと14000点。木やガラス細工などでできたフクロウの置物や彫刻などが、ビッシリ並んでおります。豊島区における「フクロウ・みみずく推し」は、いつ、どこで、誰スタートだったのでしょうか？

以前「豊島区の区の形が、**フクロウのシルエットと完全に一致**する」という都市伝説みたいな話を聞いたことがあって、先日地図で確認したら、驚きました。**完全なる一致**でした。

地図そのものがフクロウである豊島区が、いつかタツノコプロとコラボして、「みみずくの竜（from ガッチャマン）が案内する豊島区おすすめフクロウスポット」なんて企画が実現しないかなと、日々妄想しております。案内役の役所の方にも、あのキャラクターの風貌（ふうぼう）なら、コスプレのハードルも低いのではないでしょうか。

（絵と文／目白図書館奉仕員　竹丸たかゆき）

おすすめフクロウ本

『ガフールの勇者たち 1　悪の要塞からの脱出』
▶著　キャスリン・ラスキー
▶訳　食野雅子
▶KADOKAWA

『世界の美しいフクロウ　ー神秘的なポートレートと生態ー』
▶文　マリアンヌ・テイラー
▶写真　アンドリュー・ペリス
▶訳　石田亜矢子
▶グラフィック社

『フクロウ式生活のとびら　ー入手方法から生活環境、食事、健康管理まで。ー』
▶編　鳥式生活編集部
▶誠文堂新光社

図書館イベント情報

◆児童・あかちゃんおはなし会

毎週、本の読み聞かせなどのイベントを行っています。遊びに来てくださいね。

各図書館の連絡先
□中央図書館　3983-7861
□駒込図書館　休館中
□巣鴨図書館　3910-3608
□上池袋図書館　3940-1779
□池袋図書館　3985-7981
□目白図書館　3950-7121
□千早図書館　3955-8361
□雑司が谷図書貸出コーナー　3590-1335

主催／会場	おはなし会開催日		スペシャルイベント		
	幼児・小学生	あかちゃん	10月	11月	12月
中央図書館 児童コーナー (※印は会議室)	日曜日 午後2時 (10/4は休み)	最終日曜日 午前11時 (12月は13日)	★25日・文字・活字文化の日スペシャル　午後2時	★1日・おはなしこうさく会　午後2時 ★21日・豊島岡女子学園　読み聞かせボランティア おはなし会　午後2時 ★29日・ボランティアによるおはなし会 （虹のポケット）　午後2時	★13日・おはなし会0・1・2スペシャル※ 午前11時 ★20日・冬のスペシャルおはなし会※　午後2時
巣鴨図書館 地下会議室	水曜日 午後3時	第3火曜日 午前11時	★14日・ほんのじかん　こうさくかい　午後3時 ★21日・文字・活字文化の日スペシャル　午後3時	★11日・ほんのじかん　スライド　午後3時 ★25日・ほんのじかん　おおきいほんのひ 午後3時	★23日・冬のお楽しみスペシャル　午後3時
上池袋図書館 おはなしのへや (※印は地下ホール)	水曜日 午後3時	最終水曜日 午前11時※ (12月は23日)	★21日・さくらんぼおはなしかい 文字・活字文化の日スペシャル※　午後3時		★23日・さくらんぼおはなしかい ―クリスマススペシャル―※　午後3時
池袋図書館 ワークルーム	土曜日 午後2時30分	第1水曜日 午前11時	★17日・おはなしたんぽぽ 文字・活字文化の日スペシャル　午後2時30分 ★24日・たんぽぽえいがかい　秋のスペシャル 午後2時30分 「大どろぼうホッツェンプロッツ」（97分） ★31日・たんぽぽこうさくかい　午後2時30分	★28日・たんぽぽえいがかい　午後2時30分 「雄牛のフェルナンド」（8分） 「花さき山」（14分）	★5日・たんぽぽこうさくかい　午後2時30分 「クリスマスのかべ飾り作り」 ★19日・たんぽぽクリスマスかい　午後2時30分
目白図書館 地下区民集会室	水曜日 午後3時	第1水曜日 午前11時	★28日・あいうえおはなしかい 文字・活字文化の日スペシャル　午後3時	★25日・かきくけこうさくかい　午後3時	★23日・あいうえおはなしかい クリスマススペシャルおはなし会　午後3時
千早図書館 視聴覚室	水曜日 午後3時30分	水曜日 午前10時30分	★21日・ほんとこおはなしかい 文字・活字文化の日スペシャル　午後3時30分		★16日・ほんとこおはなしかい　冬のスペシャル 午後3時30分

日程・会場等が変更になることがあります。事前にお問合せください。

10月27日は文字・活字文化の日

図書館おはなし会のご案内

知的で心豊かな国民生活及び活力ある社会の実現を目指して、平成17年7月に文字・活字文化振興法が制定されました。それに伴い、毎年10月27日を“文字・活字文化の日”と定め、文字・活字文化についての関心と理解を広く深めるための様々な取組みが行なわれています。区内各図書館では、子ども達に向けてスペシャルおはなし会を行ないます。

>>詳細は各図書館へお問い合わせください。

巣鴨図書館　巣鴨・大人のお話会

平成27年4月にリニューアルした巣鴨図書館で、大人向けのイベントを企画しました。8月に実施した「巣鴨キネマ」に続く第2弾は、大人のお話会です。

日時　11月29日(日)　午後３時～
会場　巣鴨図書館　地下会議室
内容　16ミリ映画上映（川本喜八郎による安珍清姫「道成寺」の人形アニメ映画）、朗読など（30分程度）
定員　30名（申込不要・先着順）

千早進歩自由夢月例会

「新美南吉は今も」

生誕100年を記念し『新美南吉ものがたり』を出版された楠木氏が、南吉の生涯を語られます。なお、童話の朗読は「はなしのぶの会」が担当します。

日時　11月21日(土)
午後２時～４時（開場1時30分）
会場　千早図書館2階視聴覚室
内容　児童文学者　楠木しげお氏講演会
定員　50名（申込不要・先着順）
主催　千早図書館友の会

目白図書館　講演会

「目白、椎名町界隈の郷土ばなし」

日時　11月29日(日)　午後２時～
会場　目白第一区民集会室（目白図書館地下）
内容　豊島区立郷土資料館学芸員・福岡直子氏による、地域郷土に関する講演会です。
定員　30名（先着順）
申込　11月1日(日)より
目白図書館カウンターまたは電話
☎3950-7121

上池袋図書館　ビブリオバトル

おすすめ本の魅力を５分で紹介、観覧者が「読みたい」と思った本＝チャンプ本を投票で決定するゲームです。プレゼンの上手さを競うだけではなく、紹介者と観覧者のコミュニケーションが楽しめます。初めての方もお気軽にご参加ください。

日時　11月15日(日)　午後２時～
会場　上池袋図書館　地下ホール
対象年齢　中学生以上
募集人数　◇紹介者6名、観覧者30名（先着順）
◇テーマ・ジャンル不問
申込　10月21日（水）午前９時より
上池袋図書館カウンターまたは電話　☎3940-1779

おたより大募集！

みなさんが読んだ本や、図書館にまつわるエピソードなどを募集しています。

◆募集内容　※400字程度

○紹介したい本とその理由
(書名、著者名、出版社、出版年等もお書き添えください)
○図書館にまつわるエピソード
○本誌に対する感想、ご意見

◆応募方法

○封書またはメールにてご応募ください。メールの場合は、タイトルに「図書館通信おたより係」とご記入ください。
○氏名、年齢、住所、電話番号を明記してください。
○匿名希望の方は、ペンネームをお書き添えください。
○スペースの都合上、趣旨を変えない範囲で原稿を加筆・修正させていただくことがあります。
○掲載させていただいた方には粗品を進呈します。
○お送りいただいた原稿は返却できませんのでご了承ください。
○採否に関するお問い合わせには応じられません。

【あて先】

〒170-8442
豊島区東池袋4-5-2
ライズアリーナビル5階
豊島区立中央図書館
図書館通信おたより係
E-Mail: A0027900@city.toshima.lg.jp

図書館カレンダー

○は土日祝
■は休館日

中央図書館
●開館時間●
平日　午前10時～午後10時
土日祝　午前10時～午後６時

	日	月	火	水	木	金	土
10月					1	2	3
	4	5	6	7	8	9	10
	11	12	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	22	23	24
	25	26	27	28	29	30	31
11月	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
	29	30					
12月			1	2	3	4	5
	6	7	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25	26
	27	28	29	30	31		

巣鴨・池袋・目白図書館
●開館時間●
平日　午前９時～午後７時
土日祝　午前９時～午後６時

	日	月	火	水	木	金	土
10月					1	2	3
	4	5	6	7	8	9	10
	11	12	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	22	23	24
	25	26	27	28	29	30	31
11月	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
	29	30					
12月			1	2	3	4	5
	6	7	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25	26
	27	28	29	30	31		

上池袋・千早図書館
●開館時間●
平日　午前９時～午後７時
土日祝　午前９時～午後６時

	日	月	火	水	木	金	土
10月					1	2	3
	4	5	6	7	8	9	10
	11	12	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	22	23	24
	25	26	27	28	29	30	31
11月	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
	29	30					
12月			1	2	3	4	5
	6	7	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25	26
	27	28	29	30	31		

雑司が谷図書貸出コーナー
●開館時間●
平日　午前10時～午後7時
土日祝　午前10時～午後5時

	日	月	火	水	木	金	土
10月					1	2	3
	4	5	6	7	8	9	10
	11	12	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	22	23	24
	25	26	27	28	29	30	31
11月	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
	29	30					
12月			1	2	3	4	5
	6	7	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25	26
	27	28	29	30	31		

「中央図書館」と「雑司が谷図書貸出センター」は10月5日まで特別整理のため休館です。

編集後記

宮城県の「仙台うみの杜水族館」に行きました。入ってすぐに〝ホヤ〟の水槽。そのほかにもアジにギンザケにカキにウニ……仙台港で水揚げされたのでは？と思うようなおいしそうな水槽ばかり。一風変わった展示で「宮城に作った意味がある」水族館だと感じました。（辻）